薪ストーブのゆらめく炎を眺めくつろぐ

岩手県西和賀町

特集 林業で地方創生

めざします。薪ストーブ利用世界一

「薪」の利用拡大など、森林バイオマスのエネルギー利用を核に、
地域振興と林業活性化を目指す取組を紹介します。

西和賀町は岩手県の南西部、秋田県に接する、奥羽山脈の麓に位置しています。総面積は約590平方キロメートルで、そのうち8割を森林が占め、豊かな自然を有しています。

このため、西和賀町は昔から森林との関わりが大変深い地域でした。かつて林業は町の主要産業の一つであり、森林資源は木炭や薪に加工され、暖房エネルギーとして日常的に利用されるとともに、町外へも搬出されていました。

しかし、森林所有者の高齢化や木材価格の長期低迷等により、林業の経営意欲の減退や森林そのものに対する関心が低下し、間伐等の森林整備や素材生産等の林業活動は低迷しています。

薪ストーブのある生活風景

森林エネルギーで切り開く町の未来

西和賀町では、再び、森林・林業に対する関心を高めるため、町民にとって昔から身近な素材である、「薪」に着目し、エネルギー利用に取り組んでいます。

この取組は平成15年から始まり、現在は平成23年に策定した「『薪』利用最適化システム構築計画」に基づき、「薪ストーブ利用世界一」を目指してさまざまな活動を行っています。

薪ストーブの導入推進

薪ストーブには様々な種類があり、自宅の生活様式に合わせて選択が必要です。そのための情報提供として、県内外の薪ストーブ販売業者が一堂に会した「薪ストーブ展示会」を開催しています。毎年多くの来場者があり、関心の高さが伺えます。

また、新しく薪ストーブを設置する方へ薪の無料配布も実施しています。

薪の安定供給に向けた取組

町民が薪を入手するには、自前調達か購入になります。町内の薪の供給は西和賀町森林組合が担っており、平成26年度に薪運搬車や薪割機を導入しました。

また、平成27年度には、国からの交付金を活用し、林業機械による広葉樹

薪ストーブ展示会の様子

実証試験の様子（積込）

実証試験の様子（造材）

薪割機

チップボイラー

町有林の間伐材を活用したチップ

道の駅「錦秋湖」の薪ストーブ

薪用に伐採・搬出された広葉樹

を効率的に伐採・搬出するシステム構築に向けた実証試験に取り組みました。これらの取組により、さらに薪の販売力・生産力を強化しています。

公共施設にチップボイラーや薪ストーブを積極的に導入

町公共施設への積極的な導入の一環として、平成26年度に町立西和賀さわうち病院が新築した際に、暖房や給湯用にチップボイラーを導入し、町民の健康維持・増進に寄与しています。そのほか、庁舎内や道の駅にも薪ストーブを導入しています。なお、チップの原料には、町有林から搬出された間伐材を活用しており、年間約６００立方メートルの安定的な需要を確保しました。

森林（もり）からのエネルギー利用の普及・啓発

平成27年度には、オーストリアから専門家を招き「薪と薪ストーブの利用拡大で地域に明るい明日を」というテーマでシンポジウムを開催しました。町内外から多くの来場者があり、森林（もり）からのエネルギー利用に対する理解の向上や意識高揚を図りました。

薪の需要拡大に向けた今後の展望

今年度は、新しい取組として、農業との連携を考えており、具体的には、森林資源の様々な活用を目指して、農業用ハウスに冬期間の熱源として薪ストーブ等を設置し、農産物の栽培試験に挑戦します。これにより、薪の新しい需要創出や冬期間の産業の強化が図られます。

これらの取組を継続し、将来的には薪の流通拡大による町内経済の活性化や雇用創出、町民の森林・林業に対する関心の向上、エネルギー面での自立を実現したいと考えています。

シンポジウムの様子

山の幸で切り開く町の未来

西和賀町は豊かな自然を背景に山菜やきのこといった山の幸に恵まれています。

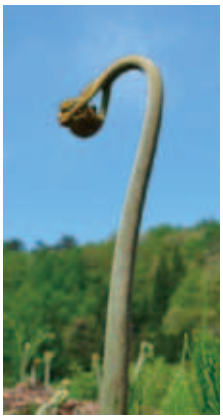
特産品「西わらび」で町おこしを

西和賀町ではわらびの特産化を目指し、平成13年より町をあげて栽培に取り組んでいます。平成20年には「西わらび」として商標登録し、ブランド化を図りました。西わらびは、アクやスジがとても少なく、とろっとした食感、粘りけがあり、柔らかいといった特徴があり、西わらびを食べに毎年訪れる熱烈なファンも大勢いらっしゃいます。

また、生産拡大に向け、堆肥や根茎定植に掛かる費用に町独自の補助を設けたことで、現在は、栽培面積41ヘクタール、栽培者236戸、生産量年間約30トンにまで拡大しています。

こうした中、わらびの根茎から精製した西和賀産わらび粉100%を原料にしたわらび餅をはじめ、さまざまなわらび菓子が地元の菓子店で生産され、人気をよんでいます。

さらに、町には観光わらび園も整備されており、気軽にわらびの収穫体験もできます。


西わらび

わらび餅

わらびのおひたし

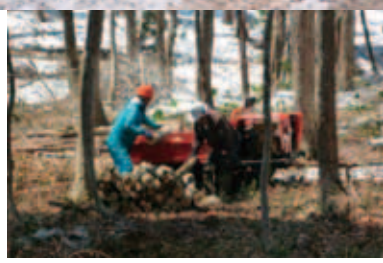
きのこに関するさまざまな取組

原発事故による放射性物質の影響により、全国的にきのこ原木が不足しています。本町は、幸運にも放射性物質の影響を受けることがほとんどありませんでした。

こうした状況を踏まえ、平成27年度に岩手県、西和賀町森林組合と連携し、町有林を活用したきのこ原木の生産に着手しました。初めての取組だったため、さまざまな課題がありましたが、原木3千本を生産し、農協を通じて花巻市内の生産者に供給することができました。

また、森林組合では毎年、地元の子供たちを対象に森林体験教室も開催しています。昨年は、なめこの収穫や植菌体験をはじめ、炭焼き体験、町産材を使った木製スプーンづくり等を行いました。森の仕事や山の幸について学び、森を育む活動を行っています。

毎年10月には、きのこに特化したお祭り「湯川温泉きのこまつり」が温泉街で開催されます。貴重な天然のまいたけのほか、名物のなめこやこうたけなどさまざまな種類のきのこが販売されます。会場では、「なめこすくい」、「毒きのこ当てクイズ」など趣向を凝らした楽しい催しが行われ、さらに「きのこレストラン」を併設し、和洋さまざまな「きのこ料理」が提供され、西和賀町の山の幸を堪能できます。


生産されたきのこ原木

湯川温泉きのこまつりの様子

森林体験教室の様子

町を取り巻く状況変化を踏まえて

町を取り巻く状況は、近年目まぐるしく変化しています。昨年、隣接する北上市に、北上プライウッド㈱結の合板工場ができました。また、今年の10月には、隣接する花巻市に木質バイオマス発電所が完成します。こうした木材需要の高まりを受け、森林を生かすまたとないチャンスととらえ、平成27年度に林業振興課が新設されました。

町有林での取組を契機に森林資源の循環利用を推進

⑴町有林の活用

西和賀町は約14百ヘクタールの町有林を保有しており、町内有数の山持ちです。このため、原木の安定供給の面で、重要な役割が期待されます。一方、町有林は町民共有の財産であることから、目先の利益を優先し闇雲に材を供給するのではなく、計画性を持ち戦略的に森林経営を行うことが重要です。

このため、今年度は、山の現況把握（在庫調査）に力を入れ取り組みます。自分たちの山にどんな材が、どこにどれだけあるかを正確に把握した上で、それをどの時期にどのくらい伐採するのか等を整理し、森林経営計画に反映させ、木材需要に適切かつ迅速に応えていける体制を整えたいと考えています。

また、地域全体の地図情報等を取り入れた携帯型森林GISを導入し、国有林と協調した効率的な森林整備も推進していきます。

携帯型森林 GIS

フェラバンチャザウルスロボ

⑵私有林の活用

私有林の活用については、西和賀町の中核的な林業事業体である西和賀町森林組合が中心的な役割を果たします。今年度、森林組合では、施業の集約化と森林経営計画の作成を加速化するとともに、伐倒作業と同時に路網作設及びグラップル作業を1台で行うことができる高性能林業機械（フェラバンチャザウルスロボ）を導入します。これにより素材生産力を高め、原木の安定供給に貢献します。

また、森林組合では、組合員を対象に間伐材の買い取りを行っています。今年度は、買取単価を上げるほか、伐倒作業等の安全講習会の開催、ロープウインチ等の器具類を整備し貸し出すことで、個人による森林整備や出材を促進します。

課題と解決に向けた取組 ～オリジナル再造林システム～

西和賀町森林組合は、「『緑の雇用』事業」を積極的に活用し、組合の若返りを図っていますが、一方で指導者であるベテラン作業員が少なく、作業員の素材生産能力は未熟な状況にあります。こうした木材需要に迅速に対応するためには、機械化を進めるだけでなく、作業員のスキルアップも並行して取り組む必要があります。

また、全国的な傾向でもありますが、西和賀町でも再造林の面積が低位で推移しています。このままでは、森林資源の目減りが進み、将来的に林業経営が立ち行かなくなることが懸念されます。このため、岩手県と連携して、町有林において、スギコンテナ苗を活用した低密度植栽、西わらびのカバークロップ効果による下刈り作業の軽減、西わらびの販売収入の活用を組み合わせた低コスト再造林の実証試験に取り組み、西和賀型の再造林システムを構築したいと考えています。

今後の展開方向

昨年10月に、西和賀町におけるまち・ひと・しごと創生に関する基本目標およびその達成に向けて取り組むべき施策の基本的方向、具体的施策などを盛り込んだ、「西和賀町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

そこには、①再生可能エネルギー導入施設の整備、②森林バイオマスエネルギーを活用した起業支援、③広葉樹伐採搬出作業の機械化支援、④薪利用の拡大など、具体的な施策として、林業が明確に位置づけられました。

さまざまな課題はありますが、森林バイオマスのエネルギー利用の推進を核として、周辺状況を追い風に、西和賀町の林業の活性化を図りたいと考えています。

西和賀町の豊かな地域資源

西和賀町には、森林の他にも、温泉、自然、雪といった豊かな地域資源があります。

(1) 温泉

清流・和賀川に沿いに「湯田温泉郷」として総称される11ヵ所の温泉があります。

全国初となる駅舎の中に温泉施設がある「ほっとゆだ」をはじめ、森林体験交流センターも兼ねる「ゆう林館」、鉱山の坑道風の洞窟風呂「穴ゆっこ」など、特徴ある個性豊かな温泉です。ほとんどの温泉は硫酸イオンを多く含むアルカリ性のため、上手な活用によって保温効果と美肌効果が得られます。

ほっとゆだ

新緑の錦秋湖と貯砂ダム

一斉に開花したカタクリ

(2) 自然

昭和39年に完成した湯田ダムによりせき止められ誕生した人口湖「錦秋湖」があります。その名の通り紅葉の季節は錦のような美しい景観を楽しめます。

また、5月上旬に一斉に開花するカタクリの群生地もあり、西和賀町の春を告げる風物詩となっています。

さらに、北には国の自然環境保全地域に指定されている和賀岳、南には栗駒国定公園内に南本内岳がそびえ、ブナの原生林やミズバショウなどの高山植物の群生など貴重な自然を楽しめます。

ブナの原生林

雪合戦大会の様子

雪あかりの様子

(3) 雪

西和賀町は、積雪が2m以上になることもある日本有数の豪雪地帯です。よって、毎年、雪を生かしたさまざまなイベントが開催されます。

まずは「雪あかり」です。これは、行政や、各種団体、企業などが、雪像やかまくらをつくり、窓にロウソクのあかりをともすというもので、町全体が幻想的なあかりに包まれます。西和賀町は雪あかり発祥の地でもあり、趣向をこらした力作は毎年好評です。今年は、約2万本のロウソクが灯りました。

次に、「ほっとゆだ北日本雪合戦大会」です。これは、平成元年に北海道壮瞥町で国際雪合戦大会が開催されたのをきっかけに、スポーツ競技として全国的に広がったもので、知力・体力・精神力・チームワークすべてを駆使する奥の深い競技です。県内外から100を超えるチームが参加し、熱戦を繰り広げます。上位チームは北海道や長野県で開催される全国大会に出場します。過去には西和賀町のチームが「全国優勝」し、さらに北欧フィンランドで開催された世界大会でも「チャンピオン」になりました。

今年は、岩手県で「希望郷・いわて国体」が開催され、西和賀町では、9月24日にデモンストレーションスポーツとして、「室内雪合戦」が開催されます。

ゆう林館

穴ゆっこ

紅葉の南本内岳

緑化活動の取り組み

植樹記念式の様子

西和賀町には、四つの小中学校があり、それぞれごとに「緑の少年団」を結成しています。学校の花壇等の手入れや学校林の整備等の緑化活動に取り組んでいます。

また、緑の募金運動に対する町民の意識も高く、昨年は約22万円の募金が集まりました。

こうした中、昨年10月に西和賀さわうち病院で、アサヒビール株式会社からの緑の募金を活用し、地元の子供たちを交え、「エドヒガンザクラ」、「ヤエザクラ」、「オオヤマザクラ」を2本ずつ、病院駐車場入り口と中庭に植樹しました。

新病院の環境向上が図られるとともに、3品種のサクラを植樹したことにより、サクラの花を長く楽しめ、その多様性を見ることができます。

今後もこうした取組を継続し、町民参加の森林づくりを推進していきたいと考えています。